令和３年度事務事業評価シート

【基本事項】

事務事業名	観光振興事業	担当課名	産業振興課
（予算書コード）	07-01-03-05-01、07-01-03-12-01	担当係名	観光係
事業区分	単年度予算 / 運営方法 / 直　営		
事業の開始・終了	年　月 ～ 年　月　（事業に始期又は終期がある場合に記入）		
根拠法令等の名称			

【事業の概要及び分析】

事業の目的 （誰に対して） （何のために） （何を行うか）	諏訪大社をはじめ、町に数多く存在する「宝＝観光資源」を最大限に活用し、地域内外の様々な人と地域をつなぐことで、交流の活性化と、来訪者の滞在時間の延長を図る。地域内の消費を促進し、観光消費額の増大と観光事業者に経済波及効果を目的に各種施策を展開することで観光事業者に経済効果をもたらすほか、町の賑わいを創出する活性化の効果も期待される。

事業の活動成果 （事業の実施によりどのような状態にしたいか）	指標名	指標の算出方法	単位		令和2年度	令和3年度	令和4年度
	観光消費額（一人当たりの消費単価）	諏訪大社周辺活性化事業効果検証調査	円	目　標	2,400	2,400	2,700
				実　績	2,381	2,400	
				達成率	99.2%	100.0%	

【投入されたコスト・業務量】

			令和2年度決算			令和3年度決算			令和4年度予算		
事業費	事　業　費　A			52,912	千円		90,824	千円		103,961	千円
	うち 会計年度任用職員人件費		2.00 人	5,668	千円	4.17 人	11,636	千円	5.00 人	17,292	千円
	正規職員人件費　B		1.00 人	6,417	千円	1.00 人	6,616	千円	1.00 人	6,583	千円
事業費合計　C（A＋B）				59,329	千円		97,440	千円		110,544	千円
財源内訳	特定財源	国　の　負　担		1,500	千円		378	千円		1,500	千円
		県　の　負　担			千円			千円			千円
		町　の　借　入			千円			千円			千円
		そ　の　他		2,030	千円		404	千円		412	千円
		うち 使用料・手数料　D			千円			千円			千円
	一般財源　（町の負担）			55,799	千円		96,658	千円		108,632	千円
受益者負担率　（D／C）				0	%		0	%		0	%

【事業の評価】

区　分		評　価		説　明
妥当性	町が行う必要があるか国・県・民間・住民と役割分担できないか	C	協働を検討すべき	これからの観光地域づくりには、行政だけではなく、民間企業や地域住民、観光振興局との協働が不可欠である。地域資源の分析や磨き上げ、観光動向、消費者動向の把握など、アフターコロナに向けて民間事業者とともにより戦略的で効果的な観光施策を実施する必要がある。
公平性	受益者が偏っていないか適切な費用負担を求めているか	B	検討の余地がある	直接的な受益者は、観光客であり、それに伴う経済的な受益は観光関係事業者が享受している。まちあるきの推進などの事業効果により町の賑わいの創出、地域活性化がみられ、それに伴い町内事業者や地域住民などが広く利益を享受している。
効率性	予算、人員と成果を踏まえ、事業が効率的に行われているか	A	適切である	民間事業者及び観光振興局、地域おこし協力隊との連携・協働により、まちあるき促進のための施策や体験商品の造成が進んだことにより観光客の来訪者数の増加やまち歩きが促進され、それに伴う滞在時間の伸びや観光消費額の増大がみられる。
達成度	事業の活動成果は目標を上回っているか（下回っている場合は、その理由）	B	目標値どおりである	下諏訪町観光振興計画では、令和5年度までに観光客一人あたりの消費単価を3,000円まで増額させることを目標としており、徐々に増額の兆しがでてきている。コロナ渦においてトレンドとなりうる個人旅行向けの各種施策を充実させ、引き続き消費単価の増額を目指す。

総　合　評　価	**現状維持**	人口減少や少子化・高齢化に加え、引き続き新型コロナウイルス感染症の影響を受けており地域経済の先細りが進んでいる。アフターコロナを見据え、観光人口や交流人口獲得への準備を進めるとともに、御柱祭における観光誘客を一過性のものとしないために、これまで同様に住民や他分野の協力も仰ぎつつ、来訪者を受け入れるための観光地域づくりを推進する。
前年度の総合評価 （評価が変わった場合はその理由）	現状維持	

令和３年度事務事業評価シート

【基本事項】

事務事業名	おんばしら館の管理運営	担当課名	産業振興課
（予算書コード）	07-01-03-20-01	担当係名	観光係
事業区分	単年度予算	運営方法	その他
事業の開始・終了	平成 28 年 4 月 ～ 年 月	（事業に始期又は終期がある場合に記入）	
根拠法令等の名称	下諏訪町おんばしら館条例、下諏訪町おんばしら館条例施行規則		

【事業の概要及び分析】

事業の目的 （誰に対して） （何のために） （何を行うか）	御柱祭をはじめとする祭の歴史や文化に親しむ機会を提供し、下諏訪の文化創造に貢献する施設として位置づけ、町全体が活性化するための拠点となる機能を目指す。また、知名度の高い御柱祭をきっかけに、御柱年以外でも祭り文化に触れることができる施設として来訪者の増加を図る。令和3年度より指定管理者制度を導入し、（一社 ）下諏訪町地域開発公社が施設の運営管理をしている。

事業の活動成果 （事業の実施によりどのような状態にしたいか）	指標名	指標の算出方法	単位		令和2年度	令和3年度	令和4年度
	観光施設の売上額	観光施設の売上額（指定管理者制度導入後の利用者数の増加）	万円	目　標	675	500	850
				実　績	253	329	
				達成率	37.5%	65.8%	

【投入されたコスト・業務量】

			令和2年度決算				令和3年度決算				令和4年度予算			
事業費	事　業　費　A				10,587	千円			3,697	千円			3,955	千円
	うち 会計年度任用職員人件費			人		千円		人		千円		人		千円
	正規職員人件費　B		0.60	人	3,850	千円	0.25	人	1,654	千円	0.25	人	1,646	千円
事業費合計　C（A＋B）					14,437	千円			5,351	千円			5,601	千円
財源内訳	特定財源	国の負担				千円				千円				千円
		県の負担				千円				千円				千円
		町の借入				千円				千円				千円
		その他				千円				千円				千円
		うち 使用料・手数料　D				千円				千円				千円
	一般財源　（町の負担）				14,437	千円			5,351	千円			5,601	千円
受益者負担率　（D／C）					0	%			0	%			0	%

【事業の評価】

区　分		評　価		説　明
妥当性	町が行う必要があるか国・県・民間・住民と役割分担できないか	C	協働を検討すべき	平成28年度に開館し、町が運営してきたが、令和3年度からは指定管理者（観光振興局）が運営管理をしており、指定管理者と連携し事業を推進していく。
公平性	受益者が偏っていないか適切な費用負担を求めているか	A	適切である	直接的な受益者は観光客であるが、諏訪大社下社春宮を中心とした周遊観光やイベント等、地域住民が集える場所としての位置づけを持つため、観光関係事業者や住民も受益者である。
効率性	予算、人員と成果を踏まえ、事業が効率的に行われているか	A	適切である	施設の保守等は適切な事業者に業務を委託し、効率的に行われている。
達成度	事業の活動成果は目標を上回っているか （下回っている場合は、その理由）	C	目標値以下である	コロナ禍の影響に伴い臨時休館や団体客のキャンセルにより減少となったものの、支出の削減や事業の効率化を図り、一定の収益確保ができたため、指定管理者とともに事業を推進する。

総　合　評　価	現状維持	令和3年度から指定管理者制度を導入し、（一社）下諏訪町地域開発公社が運営管理を実施している。御柱祭を契機として、物販や館内展示物の充実と誘客促進を引き続き行う。
前年度の総合評価 （評価が変わった場合はその理由）	手法改善	令和3年度から指定管理者制度を導入し、運営管理を開始し、町とともに事業推進を行っていく。

令和３年度事務事業評価シート

【基本事項】

事務事業名	しもすわ今昔館おいでやの管理運営	担当課名	産業振興課
（予算書コード）	07-01-03-14-01	担当係名	観光係
事業区分	単年度予算　運営方法　その他		
事業の開始・終了	年　月 ～　年　月	（事業に始期又は終期がある場合に記入）	
根拠法令等の名称	下諏訪町観光施設に関する条例、下諏訪町観光施設に関する条例施行規則、下諏訪町埋蔵文化財センター星ヶ塔ミュージアム条例		

【事業の概要及び分析】

事業の目的 （誰に対して） （何のために） （何を行うか）	平成30年度にリニューアルオープンし、時計の歴史、町の文化を紹介するほか、星ヶ塔遺跡を代表する埋蔵文化財のミュージアムが併設されている。施設は、個人客から団体客まで、受け入れることができ、専門技術者による時計づくり体験といった特色あるサービスも実施している。町のまち歩き観光の拠点施設として、観光の活性化を図るため、指定管理者（下諏訪町地域開発公社）とともに管理、運営を行う。

事業の活動成果 （事業の実施によりどのような状態にしたいか）	指標名	指標の算出方法	単位		令和2年度	令和3年度	令和4年度
	観光施設の売上額	観光施設の売上額（指定管理者制度導入後の利用者数の増加）	万円	目　標	2,515	2,441	2,910
				実　績	2,059	1,533	
				達成率	81.9%	62.8%	

【投入されたコスト・業務量】

			令和2年度決算			令和3年度決算			令和4年度予算		
事業費	事　業　費　A			10,408	千円		11,178	千円		8,914	千円
	うち 会計年度任用職員人件費		人		千円	人		千円	人		千円
	正規職員人件費　B		0.50 人	3,208	千円	0.50 人	3,308	千円	0.50 人	3,292	千円
事業費合計 C（A＋B）				13,616	千円		14,486	千円		12,206	千円
財源内訳	特定財源	国　の　負　担		0	千円		0	千円		0	千円
		県　の　負　担		0	千円		0	千円		0	千円
		町　の　借　入		0	千円		0	千円		0	千円
		そ　の　他		1,000	千円		0	千円		0	千円
		うち 使用料・手数料　D		0	千円		0	千円		0	千円
	一般財源　（町の負担）			12,616	千円		14,486	千円		12,206	千円
受益者負担率　（D／C）				0	%		0	%		0	%

【事業の評価】

区　分		評　価		説　明
妥当性	町が行う必要があるか国・県・民間・住民と役割分担できないか	C	協働を検討すべき	時計や埋蔵文化財といった特色ある体験で誘客を行い、町全体の観光客の呼び込みといった経済効果も期待できる施設である。運営面では指定管理者で管理運営を行っており、安定した利益確保を図っている。
公平性	受益者が偏っていないか適切な費用負担を求めているか	B	検討の余地がある	前年よりも入館者・体験者数の増加により収入増となっているが、引き続き誘客やサービスといった面で、観光客の更なる呼びこみを行い、収入増に取り組んでいく必要がある。
効率性	予算、人員と成果を踏まえ、事業が効率的に行われているか	A	適切である	指定管理者制度の運営では黒字となっていることや、経費面で削減した成果が見えている。
達成度	事業の活動成果は目標を上回っているか（下回っている場合は、その理由）	C	目標値以下である	コロナ禍での厳しい運営状況が続いており、目標の収益は達成できなかったものの、職員の努力により、運営費の削減及び効率化に努め、指定管理事業は、黒字化を達成した。

総　合　評　価	現状維持	特色ある体験型施設として、観光客の誘客を行い、周辺の観光事業者との連携により、町全体への経済効果が見込める。コロナ禍で、誘客が難しい状況ではあるが、経費面改善の取り組みで収益が出ているため、アフターコロナに向けた観光客の受け入れ体制の整備を図る。
前年度の総合評価 （評価が変わった場合はその理由）	拡　充	受入環境整備を実施してきたが、コロナ禍においても支出の抑制や効率化に努め、事業を推進する。

令和３年度事務事業評価シート

【基本事項】

事務事業名	**観光施設の管理**	担当課名	産業振興課
（予算書コード）	07-01-03-10-01	担当係名	観光係
事業区分	単年度予算　運営方法　直　営		
事業の開始・終了	年　月 ～ 年　月 （事業に始期又は終期がある場合に記入）		
根拠法令等の名称			

【事業の概要及び分析】

事業の目的 （誰に対して） （何のために） （何を行うか）	下諏訪町を訪れる観光客が安全安心かつ気持ちよく施設を利用し、町の魅力を体験・探検できるように施設整備や維持管理を行う。						
事業の活動成果 （事業の実施によりどのような状態にしたいか）	指標名	指標の算出方法	単位		令和2年度	令和3年度	令和4年度
	観光客入り込み	観光客利用統計	人	目　標	900,000	900,000	900,000
				実　績	970,500	858,500	
				達成率	107.8%	95.4%	

【投入されたコスト・業務量】

		令和2年度決算		令和3年度決算		令和4年度予算	
事業費	事　業　費　A	211,639	千円	67,271	千円	37,342	千円
	うち 会計年度任用職員人件費	人	千円	人	千円	人	千円
	正規職員人件費　B	1.00 人	6,417 千円	1.00 人	6,616 千円	1.00 人	6,583 千円
事業費合計　C（A＋B）		218,056	千円	73,887	千円	43,925	千円
財源内訳 特定財源	国の負担	9,515	千円		千円		千円
	県の負担	22,373	千円	14,611	千円	11,250	千円
	町の借入	0	千円	32,000	千円		千円
	その他	135,155	千円	187	千円	13,750	千円
	うち 使用料・手数料　D	55	千円	87	千円	90	千円
	一般財源　（町の負担）	51,013	千円	27,089	千円	18,925	千円
受益者負担率　（D／C）		0.025	%	0.118	%	0.205	%

【事業の評価】

区分		評価		説明
妥当性	町が行う必要があるか国・県・民間・住民と役割分担できないか	B	町以外では行えない	本事業で管理している観光施設の大半は、公衆トイレ等の町以外では、現状は運営しにくいものである。
公平性	受益者が偏っていないか適切な費用負担を求めているか	B	検討の余地がある	収益を見込むことができない施設である一方で、観光客の増加等により費用の増加が予想されるため、持続可能な観光地づくりの面では、八島公衆トイレのようにチップ制を導入するなど、受益者による負担を求めていく取り組みも必要。
効率性	予算、人員と成果を踏まえ、事業が効率的に行われているか	A	適切である	清掃等の維持管理を適切に行い、観光施設の設備面の見直しを定期的に行う。
達成度	事業の活動成果は目標を上回っているか（下回っている場合は、その理由）	C	目標値以下である	観光施設の維持管理等を適切に行い、受入環境の整備に努めているが、コロナ禍の影響により、観光客の入り込みが左右され、誘客が難しい状況が続いている。

総　合　評　価	**現状維持**	引き続き利便性を高める施設の運営管理を行い、ハード面・ソフト面で観光客から選ばれる観光地となるように事業を展開する必要がある。また、各施設については収益性は低いが、公益性が高い施設でもあることから、行政が取り組むべきものである。
前年度の総合評価 （評価が変わった場合はその理由）	現状維持	

令和３年度事務事業評価シート

【基本事項】

事務事業名	八島ビジターセンターあざみ館の管理運営	担当課名	産業振興課
（予算書コード）	07-01-03-18-01	担当係名	観光係
事業区分	単年度予算	運営方法	委　託
事業の開始・終了	年　月 ～　年　月	（事業に始期又は終期がある場合に記入）	
根拠法令等の名称	八島ビジターセンターあざみ館条例		

【事業の概要及び分析】

事業の目的 （誰に対して） （何のために） （何を行うか）	八島湿原でのトレッキングや、自然観察の拠点として、八島湿原の紹介、物品販売等により訪れる観光客へのおもてなしに努めるとともに、国の天然記念物に指定されている八島ヶ原湿原の貴重さを理解してもらい、自然環境保全の推進に寄与する。

事業の活動成果 （事業の実施によりどのような状態にしたいか）	指標名	指標の算出方法	単位		令和2年度	令和3年度	令和4年度
	観光客入り込み	営業報告	人	目　標	40,000	25,000	20,000
				実　績	17,454	16,987	
				達成率	43.6%	67.9%	

【投入されたコスト・業務量】

		令和2年度決算		令和3年度決算		令和4年度予算	
事業費	事　業　費　A	1,058	千円	699	千円	1,059	千円
	うち 会計年度任用職員人件費	人	千円	人	千円	人	千円
	正規職員人件費　B	0.60 人	3,850 千円	0.50 人	3,308 千円	0.25 人	1,646 千円
事業費合計 C（A＋B）		4,908	千円	4,007	千円	2,705	千円
財源内訳 特定財源	国の負担		千円		千円		千円
	県の負担		千円		千円		千円
	町の借入		千円		千円		千円
	その他		千円		千円		千円
	うち 使用料・手数料　D		千円		千円		千円
	一般財源（町の負担）	4,908	千円	4,007	千円	2,705	千円
受益者負担率（D／C）		0	%	0	%	0	%

【事業の評価】

区分		評価		説明
妥当性	町が行う必要があるか国・県・民間・住民と役割分担できないか	C	協働を検討すべき	平成18年度から指定管理者（観光協会）による管理運営を実施している。今後、霧ヶ峰の自然を残し、伝えていくために、観光協会の管理運営を継続し、霧ヶ峰全体での連携強化を検討していく。
公平性	受益者が偏っていないか適切な費用負担を求めているか	A	適切である	観光客が主な受益者となる。平成13年度から入館料を無料とし、誰でも自由に館内を見学できるようにしている。インタープリターを活用した自然観察は、霧ヶ峰自然教室により、利用者から料金を徴収し実施している。
効率性	予算、人員と成果を踏まえ、事業が効率的に行われているか	B	検討の余地がある	八島ビジターセンターは、指定管理者として下諏訪観光協会が実施しているが、コロナ禍において収支は、厳しい状況である。利益を得る方策としては、物販の充実を図るための研究を行っている。
達成度	事業の活動成果は目標を上回っているか（下回っている場合は、その理由）	C	目標値以下である	観光客の大半が都市圏からの学校や団体客・個人客であったが、コロナ禍が継続しており、主に都市圏からの団体客が減少したため、目標値を下回った。また、八島湿原を訪れた方全員が、八島ビジターセンターあざみ館を訪れるとは限らないので、その導線を強化する必要がある。

総合評価	手法改善	八島湿原は、コロナ禍においてもエコツーリズムやグリーンツーリズムが人気のため、多くの観光客が訪れている。昨年に引き続き、感染防止対策の徹底を図ったうえで、八島ビジターセンターあざみ館として、自然教育と収益事業の両立を検討するとともに、アフターコロナに向けた事業の準備を行う。
	手法改善の内容	八島湿原の総合案内所としての機能を充実させて、お客様への情報発信及び館内展示などの強化を図る。
前年度の総合評価 （評価が変わった場合はその理由）	手法改善	

令和３年度事務事業評価シート

【基本事項】

事務事業名	赤砂崎水辺空間活用事業	担当課名	産業振興課
（予算書コード）	07-01-03-22-01	担当係名	観光係
事業区分	単年度予算	運営方法	直　営
事業の開始・終了	年　月 ～　年　月	（事業に始期又は終期がある場合に記入）	
根拠法令等の名称			

【事業の概要及び分析】

事業の目的 （誰に対して） （何のために） （何を行うか）	諏訪湖に面した赤砂崎公園のさまざまな活用方法を検討・実施できる団体の立ち上げを支援して、地域住民や地元企業が波及的に多彩な活動ができる拠点化を目指す。令和3年度は、キッチンカーが公園に定期的に出店して、利用者に向けた飲食物の提供を行った。

事業の活動成果 （事業の実施によりどのような状態にしたいか）	指標名	指標の算出方法	単位		令和2年度	令和3年度	令和4年度
	地域住民が主体となって行うイベント回数	赤砂崎水辺空間活用実行委員会からの報告	回	目　標	2	2	
				実　績	2	2	
				達成率	100.0%	100.0%	

【投入されたコスト・業務量】

			令和2年度決算		令和3年度決算		令和4年度予算	
事業費	事　業　費　A			10,032 千円		1,103 千円		0 千円
	うち 会計年度任用職員人件費		人	千円	人	千円	人	千円
	正規職員人件費　B		0.50 人	3,208 千円	0.50 人	3,308 千円	0.00 人	0 千円
事業費合計　C（A＋B）				13,240 千円		4,411 千円		0 千円
財源内訳	特定財源	国の負担		7,100 千円		0 千円		0 千円
		県の負担		2,329 千円		0 千円		0 千円
		町の借入		0 千円		0 千円		0 千円
		その他		720 千円		680 千円		0 千円
		うち 使用料・手数料　D		0 千円		0 千円		0 千円
	一般財源（町の負担）			3,091 千円		3,731 千円		0 千円
受益者負担率（D／C）				0 %		0 %		#DIV/0! %

【事業の評価】

区分		評価		説明
妥当性	町が行う必要があるか国・県・民間・住民と役割分担できないか	D	町が行う必要はない	地域住民や地元企業が主体となって、赤砂崎公園で、様々な活動を行う事業者が育成されてきており、事業者が自ら事業を実施している。
公平性	受益者が偏っていないか適切な費用負担を求めているか	A	適切である	赤砂崎公園の利用方法が整備されており、事業者が適切に利用している。
効率性	予算、人員と成果を踏まえ、事業が効率的に行われているか	A	適切である	事業者が主体的に公園活用する段階に入っている。今後のさらなる活性化を計画する場合は、予算や人員の投入が必要となる。
達成度	事業の活動成果は目標を上回っているか（下回っている場合は、その理由）	B	目標値どおりである	事業者が定期的に公園を活用していることから、目標を達成している。引き続き事業者が主体的に事業を展開・継続していくことを期待する。

総　合　評　価	廃　止	町と事業者が協力して、検討時より事業者が主体的に事業展開することを意識し、赤砂崎公園の利活用の検討を重ね、一定の成果を得ることが出来たため、廃止とする。今後は、事業者と協力し、諏訪湖畔の活性化を図る。
前年度の総合評価 （評価が変わった場合はその理由）	現状維持	事業者が公園を有効活用していることから、目標を達成したため廃止とする。

令和３年度事務事業評価シート

【基本事項】

事務事業名	(新)観光支援緊急対策事業	担当課名	産業振興課
(予算書コード)	07-01-03-38-01	担当係名	観光係
事業区分	単年度予算	運営方法	直　営
事業の開始・終了	令和 3 年 4 月 ～ 令和 4 年 3 月	(事業に始期又は終期がある場合に記入)	
根拠法令等の名称			

事業区分	単年度予算	運営方法	直　営	委　託

【事業の概要及び分析】

事業の目的 (誰に対して) (何のために) (何を行うか)	国が実施する誘客キャンペーンであるGoToトラベルキャンペーンが、緊急事態宣言発令等の影響に伴い停止となっているなかで、首都圏からの誘客が大部分を占める下諏訪温泉旅館への誘客を図るため、町独自の宿泊割引キャンペーンを実施する。

事業の活動成果 (事業の実施によりどのような状態にしたいか)	指標名	指標の算出方法	単位		令和2年度	令和3年度	令和4年度
	宿泊割利用者数	観光消費拡大キャンペーン事業(下諏訪宿泊割)の利用者数	人	目　標		4,000	
				実　績		4,040	
				達成率		101.0%	

【投入されたコスト・業務量】

		令和2年度決算		令和3年度決算		令和4年度予算	
事業費	事　業　費　A		千円	18,927	千円		千円
	うち 会計年度任用職員人件費	人	千円	人	千円	人	千円
	正規職員人件費　B	人　0	千円	0.50 人　3,308	千円	人　0	千円
事業費合計　C(A+B)		0	千円	22,235	千円	0	千円
財源内訳 特定財源	国　の　負　担		千円	18,927	千円		千円
	県　の　負　担		千円		千円		千円
	町　の　借　入		千円		千円		千円
	そ　の　他		千円		千円		千円
	うち 使用料・手数料　D		千円		千円		千円
	一般財源　(町の負担)	0	千円	3,308	千円	0	千円
受益者負担率　(D/C)		#DIV/0!	%	0	%	#DIV/0!	%

【事業の評価】

区　分		評　価		説　明
妥当性	町が行う必要があるか 国・県・民間・住民と役割分担できないか	C	協働を検討すべき	コロナ禍のため、事業を迅速に遂行するために、(一社)下諏訪町地域開発公社観光振興局と協働の事業とした。
公平性	受益者が偏っていないか 適切な費用負担を求めているか	A	適切である	直接的な受益者は、観光客であるものの、コロナ禍の影響が大きい事業者への直接的な支援を実施した。
効率性	予算、人員と成果を踏まえ、事業が効率的に行われているか	A	適切である	(一社)下諏訪町地域開発公社 観光振興局が中心となり、迅速かつ効率的な事業推進を図った。
達成度	事業の活動成果は目標を上回っているか (下回っている場合は、その理由)	B	目標値どおりである	観光事業者等への直接的な支援件数は、コロナ禍の動向を含む、社会情勢に左右されることとなるが、おおむね目標どおりの成果となった。

総　合　評　価	**廃　止**	(一社)下諏訪町地域開発公社観光振興局が中心となり、新型コロナウイルス感染症の影響を受けている観光事業者等への支援を実施した。
前年度の総合評価 (評価が変わった場合はその理由)		